

授業科目名	管弦楽法Ⅱ	担当形態	講義		
		開講学期	秋学期		
担当教員	小林 聡	単位	2	年次	3

＝授業のテーマ及び到達目標＝

管弦楽法Ⅰに続き、管弦楽法におけるテクニックを、Beethoven から年代順代を学習する。大編成のオーケストラ用い、ピアノ作品等をオーケストラ編曲するための管弦楽法における幅広く多岐に渡るテクニックを身につけ、オーケストラ作品を作曲するための基礎的能力も習得する。

＝履修の条件と学習の方法＝

オーケストラで使われる楽器に興味を持ち、ピアノ作品等をオーケストラ楽器のために編曲したいと考えている人、また自身でオーケストラ作品を作曲したいと考えている人を対象とする。管弦楽法と作曲法は多くの部分で重なっているため、履修に際し、和声、対位法、楽式の十分な知識と能力を備えていること。2/3 以上の出席がない場合、理由に関わらず、失格とする。遅刻、早退、中途退席3回で欠席1回と見なす。また、授業時間の半分の時間（45分）を超過しての遅刻、早退、途中退席は欠席扱いとする。無断退席・無断退室禁止。携帯端末使用禁止。飲食禁止。

＝授業の概要＝

大作曲家の管弦楽法を、Beethoven から年代順代に、作品鑑賞・分析等も行いながら学習し、実際にピアノ作品をオーケストラのために編曲することを学習する。管弦楽法Ⅰで習得した技術を基礎として、管弦楽法における様々なテクニックを理解し、さらにオーケストラ作品を作曲するための基礎的能力も身につける。

＝授業計画＝

- 1回 導入
- 2回 Beethoven の管弦楽法(1)
- 3回 Beethoven の管弦楽法(2)
- 4回 Beethoven の管弦楽法(3)
- 5回 Berlioz の管弦楽法(1)
- 6回 Berlioz の管弦楽法(2)
- 7回 Rimsky-Korsakov の管弦楽法(1)
- 8回 Rimsky-Korsakov の管弦楽法(2)
- 9回 Rimsky-Korsakov の管弦楽法(3)
- 10回 Ravel の管弦楽法(1)
- 11回 Ravel の管弦楽法(2)
- 12回 Ravel の管弦楽法(3)
- 13回 ピアノ作品のオーケストラ編曲(1)
- 14回 ピアノ作品のオーケストラ編曲(2)
- 15回 まとめ

＝テキスト（必携）＝

書籍名：新総合音楽講座 8 管弦楽法概論
 著者名：河江一仁
 出版社：財団法人ヤマハ音楽振興会

＝参考書・参考資料（必携）＝

必要に応じて使用する作品の楽譜等を指示する。

必携ではないが、次の参考書は管弦楽法を学習する際に、大変有用である。

書籍名：管弦楽法

著者名：ウォルター・ピストン／戸田邦夫訳

出版社：音楽之友社

必携ではないが、次の参考書はさらに実践的で有用である。

書籍名：The Study of Orchestration (Third Edition)

著者名：Samuel Adler

出版社：Norton

=成績評価の方法と評価の基準=

提出課題、授業への参加姿勢、日頃の添削課題など、総合的に判断する。(85点以上A、70～84点B、60～69点C、59点以下D) 授業を著しく妨害した場合はC・D評価もありうる。

=その他=